

一 義光物語云 天正十八年小糸の一族中誅罰の時太
閤秀吉公小田原へ出發向の所義光出向といふに帝儒陳
刻意於人等之終ひは其悦み候て則於此前より紫
出羽の侍従と云ふ人ありて其能登も義光の供成に
翌年天正十九年五月廿日京に病死に能登
子見又五郎延沢宮内より其後を承て江守光昌と名
乗家上落居の時加賀肥後守の由りて歟